きらり人

生き生き人生　わくわく私

いつの時代にも色あせない作品をつくりたい

漫画家・漫画原作者

河島 正さん（灘町出身・松山市在住）

「小さいころから絵を描くことは好きで、よく描いていました。」と話す河島正さんは、現在、月刊誌に連載中の漫画で、原作者として活躍しています。河島さんが漫画家になりたいと思い始めたのは、小学生のとき。「私が子どものころは、一番の楽しみが漫画でした。手塚治虫先生やちばてつや先生が好きで、『あしたのジョー』などの漫画をよく読んでいましたね。そして、『こんなにおもしろい仕事があるのか。これで食べていけたら幸せだな。』そんな気持ちを持つようになりました。」

高校生の時に漫画雑誌への投稿を始め、「最初は全然だめでしたが、20歳で投稿した6作目の作品が小さな賞に入ったことで、『いけるぞ』と手応えを感じました。」なりたいという気持ちや情熱があれば必ず叶うと、絵の勉強を独学で進め、家の仕事を手伝いながら、漫画を描く道を選びました。その後、30歳で投稿した作品をもとに連載が決定し、プロデビュー。「苦しくても漫画を描くことを続けられたのは、自分が誇れるものはこれだ。と思ったからです。親からは、30歳までにかたちにならなかったらやめるように言われていたので、ギリギリで間に合いました。」努力の末に実現した夢。初めて自分の作品が雑誌に掲載された時は、うれしい反面、「他の人と比べると未熟な自分の作品が載っていいのか」と照れくさいような感覚になったそうです。

現在の漫画原作者としての仕事は、主にストーリー展開やアイデアを出し、作品の材料となるものを描くこと。その河島さんの原作をもとに、検討を重ねて作画がされ、作品がつくられます。1話分の原作をつくるのにかかるのは、およそ15日から20日。調子がいい時は、すらすらと描けるそうですが、納得がいかないところがあれば、何度も描き直します。「読者の中でも、例えば小中高生は、少ないおこづかいの中から、本を買ってくれています。だから、買って損をさせない漫画を一生懸命描かなくてはいけないと思いますね。」

作品づくりで悩んだ時、一番の励みになるのは、やはり、ファンからの手紙です。すべて大切にとってあり、読者と身近な関係でいたいと返事も書くようにしています。そんな河島さんが望むのは、「流行に流されないテーマで、いつの時代に読んでも色あせない作品をつくりたい。」ということです。現在、描いている作品のテーマは、「生と死」。普遍的であるがゆえに表現が難しいテーマでもあり、模索を重ねる日々です。しかし、「私は、小さいころからなりたかった漫画家になれたこと、そして、競争が激しいこの世界で、漫画家としてなんとかやっていけていることで自分に自信が持てるようになりました。だから、若い人たちにもやりたいことにはどんどんチャレンジして欲しいし、一つでもいいから自分の得意なことを見つけて伸ばしていって欲しいと思います。」